

私を育てた
あの時代、あの出会い

Vol.4

「子どもを好きになる」

教育の基本を教えてくださいました恩師

熊本県 熊本市立池上小学校校長 枡居眞理子 MATSUI MARIKO

教師は日々、さまざまな働き掛けの中で子どもを育てる。そして教師は、共に働く仲間との出会いの中で育っていく。出会いから学んだ教育の原点、そして次代を担う若い世代に伝えたい不易を、枡居校長が語る。

初任校で挫折した私に
自信を与えてくれた

大学卒業後、福岡県の教師になりましたが、抱いていた小学校のイメージと現実とのギャップに戸惑い、2年後に退職しました。しかし、教師への思いがどうしても捨てられず、故郷の熊本に戻り、再挑戦することにしたのです。

1年間の苦しい勉強の末に採用試験に再合格し、赴任したのは水俣市立水俣第二小学校。「もう失敗できない」という重圧を抱えていた私を温かく迎え入れ、教師としての基本

を教えてくださいくださったのが、校長の白瀬友信先生でした。

白瀬校長は温厚で物静かな方で、若手教師を自宅に招いて勉強会を行いました。私も含め、一人暮らしの教師が多かったので、食生活の面も気に掛けてくださったのでしよう。

当時は今のように研修制度が充実していませんでした。他の先生方とおいしい料理をいただきながら、白瀬校長の話を聞くのは何よりの楽しみでしたし、有意義な研修でした。白瀬校長は決して叱るようなことはなく、「澤田先生（枡居先生の旧姓）



まつい・まりこ 教師だった両親の姿を見て育ったことが、教師を目指したきっかけ。水俣市立水俣第二小学校教諭、熊本市立碩台幼稚園園長、熊本市立銭塘小学校校長などを経て、2010年、熊本市立池上小学校に校長として赴任。

1976 (昭和51)
新採として
福岡県志免町立
志免東小学校に赴任

1979 (昭和54)
熊本県水俣市立
水俣第二小学校に赴任。
白瀬校長と出会う



水俣第二小学校時代の
教師が集まった時に
白瀬校長を囲んで

2000 (平成12)
熊本市立川尻小学校に
教頭として赴任

2003 (平成15)
熊本市立碩台幼稚園に
園長として赴任

2006 (平成18)
熊本市立銭塘小学校に
校長として赴任

2010 (平成22)
熊本市立池上小学校に
赴任

は頑張っていますね。この間の授業は良かったですよ」などと、一人ひとりの良さを認めながら、指導方法や子どもとの接し方を、優しい口調で具体的に教えていただきました。

教師によって考え方や性格はさまざまですが、白瀬校長は、一人ひとりを信じて伸ばそうという気持ちがとても強かったのだと思います。そんな白瀬校長に支えていただき、私は次第に自信を持って子どもに接することが出来るようになりました。

担任をしていた学級に、家庭の問題によって不登校の傾向がある子どもがいました。当時は「不登校」という言葉もなく、教師が子どもを家に迎えに行くようなことはすべきではない、と考えられていました。しかし、私はどうしても放っておけず、迎えに行きたいと思いました。一方で、「一人の子どもを特別扱いするようなことをしていいのだろうか」という気持ちもありました。

そのことを白瀬校長に相談すると、「子どものためになるように、しっかりと頑張りなさい」と送り出してくれたのです。私の迷いは吹っ切れました。家庭訪問で学級を空ける間、他の先生が子どもを見てくれて

いました。それも白瀬校長が協力をお願いしてくれたのだと思います。

自分を信じ挑戦する教師をどこまでも支えたい

当時の私は若気の至りというか、あまり周囲を気にせず、自分が良いと思うことをどんどん実行していました。ある時、先輩の一人から「あまり頑張り過ぎず、ほどほどにするように」と注意されましたが、白瀬校長はそのようなことを一切言わず、どんな時も見守ってくれました。

今思えば、私にも反省すべき点がたくさんありました。当然、白瀬校長もそれに気付いていたはずですが、しかし、「出る杭を打つ」のではなく、懸命に頑張っている者を支え、それぞれの良さを引き出していくのが、白瀬校長の教師に対する一貫した態度でした。そのために白瀬校長ご自身が「許容する苦しみ」を感じていたかもしれません。それでも教師を励ますことで、周囲の教師も「自分も頑張ってみよう」という気持ちになり、学校全体に前向きな雰囲気が生まれていたのだと思います。白瀬校長を見習い、私も教師として、子どもの良さを認めて伸ばすと

良いと思ったら試してみる

そんな先生方を支えたい



いう接し方を心掛けてきました。その経験を通して確信したのが、「子どもを好きになること」こそ、教育の第一歩だということです。欠点ばかりを気にすると良さが見えなくなりますが、子どもを好きになって褒めていると、自然と欠点が小さくなっていきます。そして、そのような望ましい変化は、周囲の子どもにも広がっていくのです。

白瀬校長の教えは、自分が校長となった今も強く意識しています。学

校経営の最終的な責任は校長にあるからこそ、現場で頑張っている先生には思い切って自分が良いと思ったことを試してほしい。それが子どものためになると思つての行動ならば、私はどこまでも支えていくつもりです。

今の自分に出来ることを精一杯頑張ることで、人は成長するのだと思います。そのように絶えず自分自身を高めていけることが、教師という仕事の醍醐味ではないでしょうか。